

# 新年号、新連載続々！！

- 8 **ダイワへらマスターズ2005 清遊湖**
- 20 **G杯争奪全日本へらブナ釣り選手権 甲南へらの池**
- 26 **《新連載》中澤岳 フィールド真っ向勝負**  
《Vol.1》晩秋の野田幸手園
- 32 **《新連載》杉山達也のSUPER SPLASH!**  
《ROUND.1》鬼怒川大自然:ネオ新へら狙い宣言
- 39 **《新連載》田辺哲男&小林恭之の間答無用へらツアー**  
《Vol.1》本気で試合編! 椎の木湖で竿頭を獲れ!
- 44 **名手・石井旭舟がいく、へら崩出会い旅... へらぶな浪漫街道**  
《第三十六回》埼玉県・鎌北湖
- 50 **小池忠教 激釣大全**  
《最終回》今年を振り返って…。
- 56 **竿春グループ合同例会 清遊湖**
- ★AREA REPORT**
- 58,66 北部手賀沼(千葉県) 本誌・伊藤洋一
- 60,68 赤祖父湖(富山県) 山本一朗
- 61,69 三川フィッシュパーク(岐阜県) 後藤 誠
- 62,70 分川池(奈良県) 前田誠志
- 63,71 血垣の新堀(福岡県) 河口正伸
- 134 **フォーカス愛用者釣大会 三川FP**

- 139 **棚網 久 あなたの夢を叶えます。**  
「サンラインカップ」で優勝を目指せ!!  
《最終回》ドリーマー:佐々木 秀さん 釣り場:宮城弁天池
- 146 **ダン・へら名人クラブ対抗へらへら鮎釣り大会 羽生吉沼**
- 149 **NEO-HERA2005 びん沼川オープン戦**  
152 **《特別企画》NEO-HERA2005チャンプ西田一知インタビュー**
- 156 **《新連載》稲毛利夫 野釣り場地獄巡り**  
《第1回》40cmゲット! ここは天国!? (埼玉県鳩山町~越生町の野池)
- 160 **私の宝物**  
《Treasure.9》ゲスト:野口善裕さん
- 194 **岡田 清 Deep Side Angle**  
《Vol.27》【凸凹の底を斬る】 厚木H.C(神奈川県)
- 201 **《新連載》北川穂積 西の交友録**  
《第1回》ウキ「天ヶ瀬」作者 新井正栄 釣り場:紀ノ川・田井ノ瀬
- 204 **釣りの帰りに寄りたいお店**  
《file.15》静岡「野守の池」至近【たいやきや】の抹茶たいやき&やきそば
- 206 **釣果予想クイズ**
- 208 **フィッシングレディ**  
《今月のレディ》庄司祐子さん 野田幸手園

p.165~

## 釣り場割引 クーポン券

野田幸手園 椎の木湖  
清遊湖 谷和原大沼 隼人大池  
上尾園 F.A吉羽園 谷養魚場  
将監 柳生F.P 筑波白水湖  
泉堰 逆井H.C 友部湯崎湖  
水藻F.C 甲南へらの池  
三和新池 狭山H.C 新座L.C  
川越F.C 府中H.C 当麻池  
多賀釣池 芦田湖水光園  
鳥羽井沼 朝日池 大上へら池  
田島池 霧の沼 小川つり堀園  
清川つくしF.C  
三名湖・舟宿 光月  
千代田湖・舟宿 干和  
西湖・釣舟 白根  
西湖・釣り宿 丸美  
西湖・釣り宿 青木ヶ原



▶今月の表紙  
angler: 中澤 岳  
field: 野田幸手園  
photo: 本誌・里  
layout: 本誌・里

# へら鮎 1月号

Jan.2006 No.481

- 75 **へら鮎釣り 超基本講座**  
《第13回》段差の底釣り
- 81 **《新連載》ガチンコ道場**  
《第1回》心熱き13人が集合!! 野田幸手園
- 88 **《新連載》カリスマ伝説**  
《Vol.1》G杯優勝を逃して罰ゲーム!? 西湖へ鬼退治
- 92 **《新連載》石川裕治が伝授する王者の法則**  
《第1回》バラグル&両ウドン 椎の木湖
- 99 **江成公隆のトーナメント、復活への道。**  
《Vol.43》Dark Side Angel
- 106 **《新連載》すすめつつ へら鮎調査隊! 天野正由**  
《調査ファイル01》里珍に相模川本流のへらを釣らせてやってちょーだい。
- 110 **水辺のプラネタリウム 吉本亜土**  
《今月の星空》「アフリカの水辺」
- 116 **最狂へら戦士養成所“鮎の穴” 漢タカハシ**  
《第三十四話》漢タカハシ、ヘルニアに悶絶。リタイヤ寸前!?

- 119 **《新連載》へら鮎ブログ 西田美明**  
《第1回》「ウォーキングブログ」の巻
- 122 **母なる湖…琵琶湖へらを釣れ! 南元彦**  
《第9回》「薩摩」でニャーニャー!?
- 126 **野田幸手園新聞**
- 162 **ワクワク管理釣り場情報**
- 171 **小売店情報**
- ★へら鮎BOX**
- 177 里ちゃんの新米編集長雑記
- 178 情報発信基地
- 180 **第9回 椎の木湖フレンドシップ選手権**
- 181 ボイス
- 186 コラム『へら狂おやじと呼ばないで』白石和弘
- 187 コラム『日研だより』日研広報部長・遠藤克己
- 188 コラム『日々是、勉強!』 ホワイト
- 189 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』中峯伸行
- 190 プレゼント発表
- 191 広告索引
- 192 編集後記

## STAFF

●Producer  
根本百合子

●Editor in chief  
田中里史

●Editor  
大場勝良  
諸富一秋  
伊藤小百合  
伊藤洋一

●Planner  
〈オフィス・えび〉  
藤原 肇

※「竹とともに生きる。」は誌面の都合でお休みさせていただきます。

chronome



この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

# 江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
業界初、Web運動企画!...のハズが更新滞り中! (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

## 〈Vol.43〉 江成公隆 Dark Side Angel

### 「一歩進んで二歩下がる!?!」

Deep Side Angle (ディープサイドアングル) ならぬ、Dark Side Angel (ダークサイドエンジェル)。

思いっきりダジャレである…。

本文中にあるとおりの理由で、今月、江成は岡田 清の本誌取材に同行することとなった。

それゆえの、ダジャレである…。

ただそれだけである。

それと、今月から字が大きくなったんで、そこんとこヨロシク♡

by 里ちゃん

希望。

今年のジャパンカップは、感動モノだった。藤間昭生氏の快挙。57歳というベテランの新チャンピオン誕生は、同年代ではない僕にも希望を与えてくれた。現在、「月イチで奇跡を起こす」というテーマで孤軍奮闘中の僕だが、ほとんどの読者が感じているように「かなり厳しいんじゃないの?」というのが現実ではある。ところが57歳でもメジャーで勝ち抜けるということになれば、息子達に金も手もかからなくなってからで十分に間に合う。

トーナメントを醒めた目で見ている人達の多くには、「釣りは競技だけじゃないよ」という言い分があるだろう。「ひとり静かに釣り糸を垂れていた」、「釣果は二の次」だ。ところが隣に自分より釣る人がいた場合、仙人でいられる釣り人はそう多くない苦だ。こんなことは以前にも書いた気がするが、それが釣り師の性というものだろう。そしてその隣の釣り人が自分より明らかに若い場合、「ハイハイ、体力勝負ではついていけません」という言い訳が可能になる。

やがて年老いてゆく自分を想像してみると、衰える体力とともに、集中力や判断力の低下が心配だった。メガネを常用している僕にとっては、視力も悩みの種であった。僕がイケイケだった二十歳前後の頃のことである。ところが、その当時のメジャートーナメントや所属クラブの月例会では、若い人より40代50代の大先輩方の活躍が目立っていた。どんなに若くても30代だ。ゴールデンクラブでは還暦間近(当時)の佐藤徳通会長の釣果にはいつもぶったまげていたし、サンデーマスターズ会長の岡崎一誠氏からは「江成君、30まではまとも釣れないよ。釣りは30からだ」と

と、よく言われていた。技術や経験のことを言っているのか、メンタル的なことを言っているのかはよく分からなかったが、「体力や勢いだけではどうにもならない世界」という認識が、釣りから離れるまでの僕にはあった。

数年のブランクのあと、久しぶりに手にとった「へら鮎」誌上で僕の目に飛び込んできたのは、杉山達也君のカラーでの連載と、彼の輝かしい実績だった。彼と最後に会ったのは、萩ちゃんに連れられて我が家に遊び来たまだやんちゃな学生の頃だったから、それはそれは感慨深いものがあった。その後、岡田君とも再会し、彼がジャパンカップの現チャンピオン(当時)であることを知る。岡田君はすでに30代になってしまっていたが、各誌・各所で若い人達の活躍が目立ち、「世代交代は確実に進んでいるな」という印象を受けた。若い人が増えて層が厚みが出たおかげで、非凡な才能を持った者の中にはいるということなのか。先人達の知識や経験という資産の共有化が進み、釣り人の平均レベルが底上げされたのか。僕には分からなかったが、岡崎氏が言った「釣りは30から」という言葉は、震んでいった。

昨年までのジャパンカップでは、岡田君の二連覇のあと、萩ちゃんの二連覇。どうにも手の付けられない二大横綱時代の到来を感じさせるには十分な記録だ。二人とも僕と同世代であり友人でもあるが、現在の若い人の台頭が目ざましいトーナメントシーンにおいて、実は彼らはすでに古株である。もう「おじさん」だ。ここで僕は、「釣りは30から」という岡崎氏の言葉を都合良く思い出す。すでに35の僕は、へら鮎釣りには最高の年齢に達している。心身ともに充実し、脂の乗り切った最高の時代を僕は迎えていなければならぬ。サッとした。センスの差を度外視して比較しても仕方がないが、二大横綱の活躍に焦りを感



じたこともある。大笑いされても構わない。しかし全ては釣りから遠ざかった自分が悪いのだし、戻ってきても思うように釣りが出来ないのは僕に甲斐性が無いせいだ。ここで藤間氏の快拳が光ってくる。昨年度G杯優勝の岩佐氏もそう。「へら鮎釣りに年齢の上限はない」ことを久々に証明してくれた二人。百歩譲って仮に浅いタナの数釣りがドラコンであるとしても、やり方によってはシニアとバリの若手が混在で競技出来る素晴らしいへら鮎釣りというスポーツ。「ごく普通の人生を送ってれば、誰でもいつかは迎える」思うように釣りに行けない「時期であっても、焦ることはない。思う存分釣りが出来る日は再びやってくるのだ。自分の寿命が短くないことを祈りつつ、その日が来るのを信じて待てばいい。」

「自分みたいのがいつまでも活躍しているようじゃダメなんだ」

ジャンルを問わず、年齢を重ねたスーパースターが自分の後継者に続く者がいないことを憂う時、必ず口にするセリフだ。いつも「だったら引退したら？」と感じるのは僕だけだろうか。スターには素質も必要だが、環境の役割も大きい。ある程度のレベル以上の素材が用意出来たら、そこから先は周りがスターに「仕立て上げる」のだ。ホンモノのスターになるためには、「実力ででもぎ取れ」・「オレを乗り越えていけ」とも言うのかもしれないが、後進の若手に席を譲る気がないのなら、軽はずみに口にしないう方が僕は感じる。どんな業界であれ、好きなことでメシが食えるのは一握りである以上、その業界に身を捧げるには勇気があるのだ。もし、眼鏡にかなう素質を持った者が本当にいないと感じているのだとしたら、それは自分達が悪い。だってら育てなきゃ。システムを変えなきゃ。目先の保身に走ってきておいて、今さら業界の将

来を嘆いたって遅いのだ。では、へら釣りではどうか。若い人はたくさんいるとは思いますが、すでに確固たる地位を築き上げている重鎮達に、僕は引退を期待していない。むしろ生涯現役でいて欲しい。へら釣りは年齢に関係なく競技に参加出来るスポーツであることを、証明し続けてもらいたいからだ。

ここまで書いてきて何だが、僕は勿論「待つ」つもりはない。「待つ」ならこの連載を終えることが出来るし、原稿にかけ時間を釣りに充てることも可能のだが、「月イチで奇跡を起こす」というテーマに変わりはない。今回見えた希望は、あくまでも「保険」にどめるつもりである。そしてこれを新年号の誓いということにしたい。…なーんて、いつもツッパっていると疲れますよ、実際。でもツッパらないと釣りに行かなくなっちゃうんですよんで、2006年も喜んで悪役を引き受けましょうぞ！



Dark Side Angel 悪役の天使のスマイル!?

## ダブルブックキング。

11月の取材は6日に行われたが、この日は実は町内の祭りの「二日目(最終日)」であった。前日の初日は、子供神輿でフラフラ。例年のことだが、肩も入れず声も出さない子供達に代わって大人が担ぐ子供神輿。何だかなあ。で、年末へ向けて殺人的な忙しさを迎え、下手をすると今年最後の釣りになるかもしれない僕にとっては、6日の休日は何としても釣りに行っておかなければ原稿が書けない。最近取材の日取りが遅かったため、入稿の3〜4日後には本が届くというヒヤヒヤだったのだ(一番ヒヤヒヤなのは僕ではなくて里ちゃんだけだ)。町内会へは申し訳ないが、二日連チャンでのボランティアは勘弁。仕事とは違い、そうしょっちゅう顔を合わせることもないので、「仕事なんだ」と嘘ついてツッチギだった。朝早い魚釣りは出かけるところを目撃されずに便利だが、帰りが困る。もっとも取材の帰りはたいして長話になるし、岡田君がいるとなれば深夜の帰宅は決定、無問題。

11月3日の晩、とほけた編集長様から電話がかかってきた。  
「アニキ、取材の日程ってまだ決めてなかったっすよな? ね?」  
「心配のとおり6日と決まっていますが、リヤンコ?」  
「リヤンコって何スか?」  
「ダブルブックキングって意味。何となく分かるでしょうが? 別にダブル『ブックキング』にひっかけたつもりじゃないんだけどさ。ハリだけに。なんちゃって!」  
「……。実は、岡田さんの取材入れちゃったんスよあ」  
「シカトかよ……。でも岡田君なら、まさにリヤンコ\*だな。じゃあ、いいよ。同じ所で」  
「え、マジっすか? 池の月例会でもなんでもないのですけどね……」  
「何だよ、迷惑だつちゅうの? 仕方ないじゃん。オシのせいじゃないでしょうよ? 現実的に6日しかオレも空いてないし。テーマは打倒・岡田清。以上」  
「了解しました!」

\*取材日以前、江成が岡田氏と最後に会ったのは、幸手園での両ウダンの日。江成は岡田氏の前でリヤンコを決めたのだった。11月号参照!



今回の「Deep」\*と僕の取材は、厚木へら鮎センターで行われた。すでに新へらも放流済みということで、シーズンはずつかり冬にまっしぐら。「セットの練習もいいんですけど、ここはやはり新へらを狙いましょう!」という編集長様の一言で、僕はしばらくぶり…一年ぶりか?の底釣り。

詳しくは「あちら」\*を読んでもらえばいいので、ここでは裏話というかちょっと面白いと感じたことを書いてみる。

6時間にも及んだ、釣りの後のファミレスでの取材という雑談。終盤、眠気全開でグズる岡田君の横で僕は寝てしまったが、「釣りと談義の部」では岡田君が書いた「底釣りゼミ」\*をかなり持ち上げてくれていた。今だから明かすが、「北城 錦の底釣りゼミ」江成の復習ノート「冒頭の「事前リサーチした超有名なトーナメント」とは、実は岡田君のことだ。

その原稿を書き始めるちよつと前に、僕と岡田君は三島湖へ出かけた。その日の釣りは二人とも宙だったが、車中は行きも帰りも底

\*「北城 錦の底釣りゼミ」：2003.1〜7月号の計7回にわたって本コーナーに掲載された、奇才・北城氏と江成の見事な化学反応が生み出した、底釣り記事の決定版(マジで)。続編として2005.1〜5月号には「底釣りゼミ2005」が登場している。「底釣りゼミってなんのこっちゃ?」と思ったみなさんのために、念のため。 by里



釣り談義だった。底釣りでの実績も素晴らしい岡田君が僕の話にうんうんと頷く度、お調子者の僕は自信を深めたのを思い出す。今回、またまた読み返してみたが、当時の興奮というか勢いが感じられる。その、読みにくいつたらありやしない(恥)。

かなり以前に一度だけ訪れたことのある厚木。たしかその時も新べらシーズンだったが、当時と違い、かなり深くなっていて驚いた。ただ、まだ浚渫されて間もないそうで、底の凹凸が激しい。さらに規定いっぽいの15尺を用いてもカケアガリの途中であり、平坦な最深部を攻めることが出来ない。思いつきり腕を伸ばすか、仕掛けにうんとバカをつけるかしないと厳しいようだ。僕が選択した「なんちゃってペレ底(スイミー系である夏冬メイのグルダンコは、結局ペレ底である)」の比重では、半端なタナ設定ではナジミが毎回極端に変わってしまい釣りづらかった。沖打ちでテンションをかけたい僕は相当な量をズラしたが、最後まで安定したナジミにすることは出来なかった。ところが隣の岡田君のペレ底は、とても落ち着いていたナジミを示した。取材中は岡田君の方が底の状態がいいのかと思っていた。僕は水深の目印いっぽいまでウキを上げて、全く安定しなかったからだ(トップ一目出しで上バリが着底というタナ取り。その目印まで実にウキを丸々一本分動かしたことになる)。取材中、遊びに来たアモーレ山杉君が二人のウキを見て「う言った。」

「江成さんのウキの方が雰囲気が出てますね」  
今や大スターの杉山君に後ろにつかれて緊張し、その時ほとんどカウントを重ねられないでいた僕には、正直ひっかかるものがあった。オレの方がへちだし、岡田君のところよりへらはいるかもしれないよ。そりゃ杉山君がやればもっと釣れるだろうけどさあ……)

ところが彼のこの発言は、あとになって大きなヒントとなる。直接のきっかけは、岡田君の一言だった。

「江成君、珍しく今日はあまりスラさなかったでしょ？」

とんでもない。僕はさんざんスラしていた。しかしナジミがバラバラだった僕の釣りを端から見れば、そういう印象を持たれても仕方がない。いや実際、タナとりの目印までスラしても決まりが出ないので、トントンとまではいかないが、タナ設定は浅め、振り込みは落とし込み気味にソフトチェンジしていた時間帯もあった。杉山君が感じたように、僕の方が岡田君のウキよりフットワークが出ていてもおかしくはなかったのだ。

「岡田君さ、実はオレ、もうこれ以上スラせないところまでいっちゃったんだよ。それでもダメだったのよ。結果としてナジミが安定してないってことは、スレ方も一定していない訳だから、決まらないよネ。午後から岡田君の方が新べらが多かった気がするのよ、そういう部分の差じゃないのかなって思うんだよね」

「これ以上スラせないとはどういう事？僕はどうせガタガタなんだしって思ってタナも測らなかつたんですよ。だいたい水深は江成君のを見れば分かったし。トンボも付けてないし。もしもトンボがあったとしたら、おそらく『超えちゃって』たんじゃありませんか？」

…ガビン。ここだよ、ここ。凡人と天才の差ってやつは。いったい何処のどいつが水深の目印をストップパーだと決めたってんだい？…自分だよ。いや待て！僕だって昔は目印をウキ止めの下にも付けていた時期があった。スラシを否定していた僕にとって、目印を超えるほどスラす心配は無用な筈だが、ひとつだけ超えるケースを想定しての事だった。それはインスタント・ドボン、すなわち

オモリベタである。

今回の底釣りは早いアタリもあるもの、へらが食う位置から言えば「完全底釣り」に分類される地合だった。最初、釣り堀らしく25-30cmでスタートした僕は、上からの反応がない時はナジんでからも何もない事に気がつき、ちょっとハリスを延ばしてみた。ついでにカケアガリも考慮したのでセッティングは30-37cm。明らかに反応がよくなった。僕はこのあと最終的に、45-52cmまで延ばすことになる。ペン先行だった「長ハリスの完全底釣り」の効果も、今回初めて実感した。…あつ！長いハリスの底釣りは、大きくスラさなければ効果がないって自分で書いてあったな……(底釣リゼミ2005、3月号参照)。

岡田君が宙から底に変える時、僕のエサのタッチを聞いてきた。ちょうどその時エサに手を打っていた僕は、

「ちょっとアマ目にしてみたよこだけど」と

と面白いながら、ひと粒投げた。受け取った岡田君は驚いてう言った。

「え〜？これでアマイの？超しつかりめじやんや〜」

「いやいや、今までのと比較してアマくなったよってことだよ」

「江成君、そういう問題じゃないよ。今触ってるこのエサで十分僕にはカッチリな訳ですよ。手直し前のエサが想像出来ないよ……」

「そう？まあ確かに手触りはしつかりめだよ。ただ、いつ開封したかわからない冬がイマイチ持っていないみたいないせいもあるよ笑。それに底釣ってオレは結構しつかりしたエサが多いかな。ハリ切れが心配な時は上から刺したりなんかしてさ」

感覚の違い、比較対象となるベースの違いと言ってしまうまでもだが、エサのタッチの表現は本当に難しい。軟らかいエサを「ハリに付ける」・「振り込める」のが上級者

# くし玉作をオーダーメイド致します!!

くし玉作バージョンは「黒べゑ」、「鮒仙人」。

生井澤 聡バージョンは「へら竿のときわ」で取り扱っています。

## 山内研作のお店「さち」

☎090・1845・2727

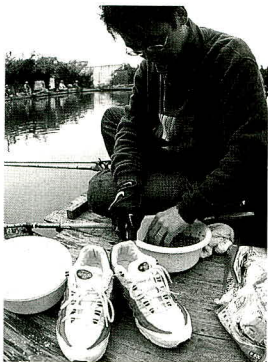
東京都板橋区清水町29-5

●営業時間/PM3時~PM7時30分

●定休日/土曜日、日曜日、祝日

都営三田線「板橋本町」駅下車、徒歩約2分



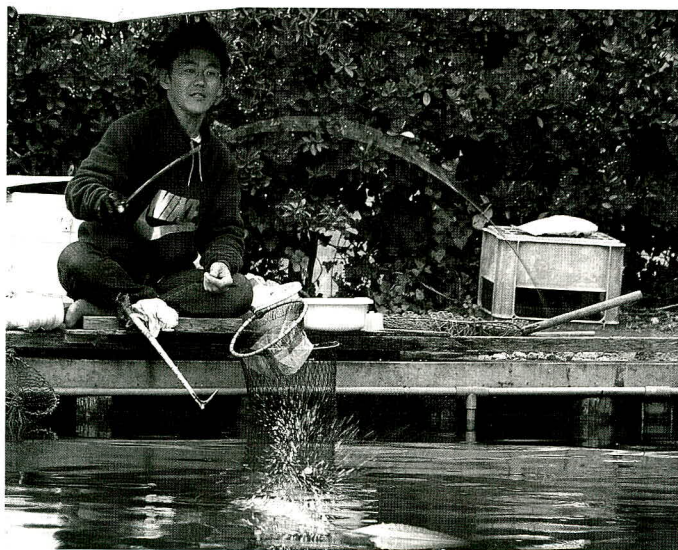


でたっ！トレーナーの「NIKE」のロゴ、そして、スニーカー、ともにレインボー。アニキ、それっていったいどこで見つけてくるんですか…

の証だとかよく言われるが、エサのタッチは当然、ケースバイケースで決まってくるものだ。僕だって、岡田君も納得するであろう「極軟」のタッチは短竿なら打てるし、打つこともある。が、岡田君のエサは、いつ触っても僕らの感覚ではアマいと感ることが多い。軟らかい方向だけでなく、ボツ方向にしてもさうだ。これはなにも岡田君が「アマさ」に酔っている（笑）わけではない。だいいち上級者ぶらなくたって、彼はとくに超一流の上級者なのだ。この差は釣り方の違い、狙いの違いで説明できると普通は思うだろう。しかし、彼の釣り座で釣りをやらせてもらったり、岡田ブランドを実際に作ってみたりしたことのある人の多くが証言するのは、

「岡田君のエサ、持たせられないよー！」

というものだ。エサはボウルの中で完成ではない。大きさ・カタチ・手もみ・庄・表面処理、そして無意識の手クセまでも考慮したエサ付けまで終えて、いや、もっと言えばそのエサに最適な振り込みもチョイス出来得て初めて、エサは完成すると言えるのだ。岡田君の場合、ボウルの中で求めるウェイトが、ただ単に凡人よりはるかに低いということである。



チャンプ岡田に「底釣りゼミ」を絶賛され、気をよくした江成。前半は底釣りて新べらを釣るまくった…のだが！

チャンプ岡田の横で、張り切る江成。終盤は土砂降りの中、なかなか釣りを止めてくれませんでした…（岡田さんもネ）



「イっちゃってます…」



杉山達也氏、愛娘を抱っこして登場！ある意味、とっても貴重なショットである



キーボードの上に置かれているのは取材当日に使用した、三平作「なんちゃって底釣り2000」改め「底釣りゼミ2003」だ。ちなみに、トップは萩野氏宅からくすねてきた真正正銘の「一志工房製セルトップ」だそう。ところでアニキ、いつも言ってますけどもう少し考えて写真撮りましょうよ…何スカ、この乱雑な机は…。[取材当日、岡田君にかりっきりでオレのウキを撮らない君が悪い。格の違いは分かるけどさ。ていうかオレ的には、ウキよりお宝の『GSキーボード』を撮りたかったワケよ。ガハハハ！ 誉めて誉めてえ♡] …いいマウスをお使いですね…



釣り終了後、ファミレスでしゃべりまくる江成と、眠くてグズるチャンプ。この後、先にスイッチが切れたのは江成の方だった…

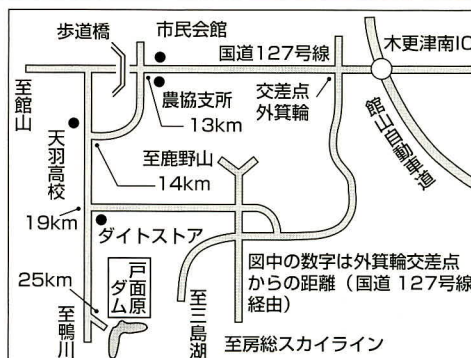
四季のへら鮎釣りを楽しむなら

自然美溢れるダイナミックな釣趣！

# とぶらはら 戸面原ダム

料金  
ボート 1日3000円  
定休日  
毎週木曜日

営業時間  
5月～8月 AM5:30～PM4:30  
9月～10月 AM6:00～PM4:00  
11月～2月 AM6:30～PM3:30  
3月～4月 AM6:00～PM4:00



☎0439-68-1587

戸面原ボートセンター 千葉県富津市豊岡2874-1



## 抱きしめてG杯。

先月号で書き漏れたが、ダイワの予選の後、僕は古川実君になぐさめられていた。  
「江成さん、絶対めげないで下さいね。僕は江成さんの奇跡を信じますー」

「昨年G杯予選でも彼になぐさめられていたから、二年連続である。」というので、先月号里君の前フリコメント「何年ぶりのメジャー予選…」は間違い。里君に言われるまで僕も気付いていなかったんですが、バリバスやG杯がメジャーじゃないとなったら大変なことになりますのよね」

で、古川君はわりとウチから近いところで働いていることが判明。

「マジ今度遊びに来なよー」

「ハイー！ 近いうちに絶対電話しますよー」

彼の釣り歴もすいぶん長い。陽気なお父上に連れられての古川君と、週末の管理釣り場でしょっちゅう顔を合わせていた頃が懐かしく思い出される。彼はまだ独身だが、多忙で釣りから離れた時期もあったと聞く。もしかすると僕に自分を重ねているのかもしれない。

い…。そんなことを思っていたある日、里君からビッグニュースがもたらされた。

「アニキ、G杯誰が獲ったと思います？ 古川君ですよ古川君！ 僕とヘア組んだりなんかしちゃったあの古川君なワケですよー！ 自分のごとくのように嬉しいなあ♡」

「アイツめーついにやったな！ おめでとーって伝えておいてちょうだいな」

でも待てよ。ダイワの時は「僕も全然釣れなくて悩みっぱなしなんですよ…」とか言っていたが、あんやろつメ。…当然「大人」の社交辞令だよなあ。分かっちゃいるけどさ…どうせみんな遠くへいっちゃうんだよ。「絶対に」彼からの電話はないだろう。きつと永遠に…。

11月15日13時46分、着信。仕事中は会社の携帯を持ち歩くため、車に置きっぱの個人携帯の着信に気付いたのは、それからしばらく後のことだった。

「…マジっわ」

車内で僕は思わず声を上げた。電話の主は、今や時の人となった古川実君だったからだ。

「メモン。僕は君を誤解していたよ。申し訳ない」といっわけ、11月23日に古川君とごこか

へ釣りに行く話がまとまった。「月？」になることと「給料日前」で女房の機嫌は微妙だったが、「原稿が終わっているなら行ってくれ」と言ってくれた。これは「快く送りだす」に等しい。当日まで何ごともなく無事に過ぎればいいのだが。

いつも遅筆の僕が、今回に限って早いのはワケがあった。さきほど書いたように年末に向けてどんどん時間がなくなっていくため、何でもかんでもなるべく前倒ししたいという気持ちもそうだが、「里君が書く岡田君の記事と僕の原稿との整合性」を検証する時間を要求されたためだ。面倒臭いから釣りに触れるのはよそうかと思っただが、気が付いたら触れていた。

「今回は書くことなんかねえよ。岡田君のところはオール写真でさ、オレのページに本文ってのはどうだ？」

「その記事はもうアニキが書いてくれるんぢやうな？」

「…どうせパソコンに向かえば、あることないことスラスラ出てくるだろうからさ。頑張ってみよう」

「岡田さんの記事を…」

「自分のだよー」

「新年号から字数制限かけますんで、調子にのってボリューム増やさないで下さいね。相変わらず『江成君のは字が小さい！』という読者からのクレームが多く、これ以上抑えきれなくなりましたよ。よっ。このクレーム請負人！」

「コラコラ…。…字を大きくするのさ。で、5ページで何字くらいなの？」

「まだ計算してないんでアレですが、いつもの半分くらいじゃないでしょうかねえ。もちろん、多かっただら容赦なくバツサリカットしますんで」

「何だよ半分って、アバウトだなく。きっちり数字で教えてくれよ」

「じゃ、メールしますよ」

脱稿寸前の17日現在、里君からのメールはない。

(おーい里君、半分ってこんなもんか?)

キ♡ 惜しい！ あと7行足りなかったぜ、アニキ by里

# 釣番付

## 料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

## 書体見本

1. ぐりへの釣会
2. ぐりへの釣会
3. ぐりへら釣会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに！

取扱店：柴舟 03-3613-2727

ウキや小物の銘入れに

## 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～  
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店：

柴舟(東京都江戸川区)

03-3613-2727

佐伯釣具店(神奈川県川崎市)

044-911-3722

SANSUI川づり館(東京都渋谷区)

03-3499-5025

フィッシング中原(神奈川県川崎市)

044-711-8266

鮎仙人(神奈川県川崎市)

044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店  
または下記HPまでどうぞ

office27  
あとりえぐり

http://www.office27.com  
E-mail:info@office27.com



# へら鮎

# 1

Monthly fishing magazine herabuna

# 新連載続々!!

都祭義晃 石川裕治 稻毛利夫 北川穂積  
田辺哲男 & 小林恭之 西田美明 天野正由



「理論派」改め「本気派」!?  
小細工無し。  
“闘い続ける男”の「本気」を  
ストレートにレポート!

## 新連載

# 中澤岳

## 「フィールド真っ向勝負」

Vol.1「晩秋の野田幸手園」

天才splasherの最新スーパーテクニック公開!!

## 新連載

# 杉山達也

## 「SUPER SPLASH!!」

Vol.1「鬼怒川大自然(新・新へら釣り理論)」

## 特集 ダイワへらマスタース & G杯争奪全日本へらブナ釣り選手権

## 特別企画 NEO-HERA2005チャンプ西田一知インタビュー

## 新連載 ガチンコ道場スタート!!

平成18年1月1日発行 (毎月10日発行) 第481巻 1号 発行所 株式会社日本釣具産業振興会



# 冬のセット。

冬のセット釣りに不可欠な「セット専用バラケ」。  
中でも、浅ダナのセット釣りでは、  
驚異的なパワーを発揮します。  
浅ダナのセット釣りは、通常、  
どのタイミングでバラケを落とすかが  
キーポイントになります。  
その点、「セット専用バラケ」なら、  
バラケを抜くタイミングを自在にコントロール可能。  
だから、冬でもリズム感のある、  
ヒット率の高い釣りを演出でき、  
セット釣りで勝負を決めにかかるへら師を、  
強力にサポートします。  
多くのトーナメントも愛用している、  
信頼と実績の競技用スペシャル。  
冬のセット釣りを、  
攻撃的な釣りへと変貌させる力を秘めたアイテムです。



**早くなじんで、素早く抜ける。  
釣れるリズムを  
つくれるバラケエサ。**

食い渋る冬の管理釣り場にも有効な、ウドン・「感嘆」のセット釣り。マルキューが、この釣りのために開発したのが「セット専用バラケ」です。いまの傾向にマッチしている、早くなじんで、素早く抜けるタイプ。適度な重さも備えているから、くわせエサへのヒット率がアップし、セット釣りで勝負を決めたいときに威力を発揮します。浅いタナはもちろん、流行の8尺チョーチンのセットにもぴったりです。

●セット専用バラケ 400g

セットのバラケを強化する、粒状ベレット「粒戦」シリーズ。



**へらの視覚にもアピールし、  
強力に寄せる「粒戦」。**

セットのバラケに加えて使う、粒状ベレット「粒戦」。ベレット独自の集魚力に加え、バラケからポロポロと落ちる様子で、へらの視覚にも強くアピール。活性を高め、くわせエサへの明確なアタリを連発させるので、食い渋る冬でも、爆発的な釣果が期待できます。適度な重さがあるので、ウワズリを抑えやすく、早いアタリを攻めているのにも特長です。

●粒戦(つぶせん) 350g チャック袋



**まとまりがよく、ゆっくり沈む、  
小さな粒の「粒戦 細粒」。**

「粒戦」よりも、粒の小さな「粒戦細粒」。小粒だから、バラケエサのまとまりが良好。沈むスピードもゆっくりで、極度の食い渋り時に威力を発揮します。そのままバラケに追い足しできるので、使い方も簡単。また、「粒戦」の調整にも便利。もちろん「粒戦」の特長である、強い集魚力、へらの活性を高める効果、ウワズリを抑える効果も備えています。

●粒戦 細粒(つぶせんさいりゅう) 350g チャック袋

定価 1000円 本体九五二円



**丸マルキュー株式会社**  
〒863-8509 埼玉県稲川市赤堀2-4

お問合 本社・稲川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909  
合わせ 四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909  
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困った  
ら、  
「モード・ボム」を  
<http://www.marukyu.com/>

**2006「横浜」開催**  
2/10(日) 11:00-12:00 at パシフィコ横浜  
国際フィッシングショー2006

